

私たちがキリストの奥義を語れるように、祈ってください。

イザヤ51:1

2014(26)年 週 報

「食事と信仰」

6月 1日
第1聖日
3354号

聖言

私の敵の前で、あなたは私のために食事をととのえ、私の頭に油をそいでくださいます。私の杯は、あふれています。 詩篇 23 : 5

礼拝の恵み又 礼拝の重要性

「また、これらの生き物が、永遠に生きておられる、御座に着いている方に、栄光、誉れ、感謝をささげるとき、二人の長老は、御座に着いている方の御前にひれ伏して、永遠に生きておられる方を拝み、自分の冠を御前に投げ出して言った。」(ヨハ黙示四ノ九、一〇)

一、礼拝は永遠の聖国での主要任務である

「この四つの生き物にはそれぞれ六つの翼があり、その回りも内側も目で満ちていた。彼らは、昼も夜も絶え間なく叫び続けた。「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな。神であられる主、万物の支配者、昔いまし、常にいまし、後に来られる方。」(黙示四ノ八)

二、礼拝とは巻物を受け取られる小羊を賛美する

「主よ。われらの神よ。あなたは、栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方です。あなたは万物を創造し、あなたのみこころのゆえに、万物は存在し、また創造されたのですから。」

三、礼拝は全ての造られた物が一つになって行う

「神の民は一切の宗派による区別をもたない。「わたしは彼らにおり、あなたはわたしにおられます。それは、彼らが全うされて一つとなるためです。」(ヨハネ一七ノ二三)

こうして、地上ではじまる礼拝は、われわれの永遠の任務の序曲ではない。どうか我らは礼拝の重要性を正当に評価して、神の恵みにより地上の生涯にある間、我々の心から多くの礼拝が上がるようにしたいものである。これは啓示された神の御目的とも、天の任務とも、一致するであろう。(「礼拝」APギブス著)

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話 : F A X (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

二〇一四年五月二五日午前一〇時 礼拝 山本牧師

「教会の苦難と栄光」 (テサロニケ連続講演第9回)

「私たちの主イエスが再び来られるとき、御前で私たちの望み、喜び、誇りの冠となるのはだれでしょう。あなたがたではありませんか。あなた方こそ私たちの誉れであり、また喜びなのです。」(テサロニケ二ノ一九、二〇)

テサロニケの信者はパウロの語る御言葉を人の言葉とせず真実神の言葉として従いました。現代の危機は御言葉の危機です。神の言葉に対する無関心です。無関心どころか御言葉を聞かせまいと妨害したのです。悪魔は巧妙です。御言葉よりこの世の楽しみで誘惑してきます。もつと楽しい世界がある。御言葉を語るパウロをユダヤ人は妨害したのです。ユダヤ人が十字架につけたイエスこそキリストであり、神の御子あり、三日目の甦られ、天に昇り、聖霊を降り、もつともなく再臨されると語ったからです。神に敵対する者は滅ぼされます。御子さえ惜しまず与えてくださったおかたはそれに加えて万物をも与えてくださる愛なるおかたです。そのお方に敵対して受け入れないとするなら神の裁きは峻烈なものであるということには推測されるのです。愛が深ければ深いほど裏切られ、無視されるなら、その失望と裁きは激しいものであるということには理解できます。パウロはテサロニケに再訪しようと試みたが、行けなかった。どのような迫害があっても、たとえ親、子、兄弟がごろされようともイエスを離れない。テサロニケの信者はそこまで信仰に成長していた。地上で会えないかもしれないが、再臨のとき、主の前に喜び、誇りは、自慢できるのはテサロニケの信者が冠である。といつこぞです。

(ヤコブ一ノ二二、二三)

二〇一四年五月二八日午後七時 祈禱会 山本牧師

「エルサレム包囲の預言」(エゼキエル連続講演第八回)

「わたしがあなたの舌を上あごにつかせるので、あなたは話せなくなり。彼ら責めることができなくなる。彼らが反逆の家だからだ。」(エゼキエル三ノ二六)

ある人が会社を退職するので「これから、日曜日には教会に行けるようになります」と挨拶をした。隣に座っていた同僚が始めてクリスチャンであると知りました。と言ったそうです。多くの信者は余り職場で伝道をしていない。いやできないのではないと思います。

まさしくエゼキエルが縄をかけられ、舌を上あごにつかせるので、あなたは話せなくなつたような状態です。では、どうしたら、話せるようになるか。

① 神様がエゼキエルと語り、彼の口を開くとき、反逆の民に福音を語ることが出来る。

「しかし、聖霊があなた方の上に臨まれるときに、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、及び地の果てにまで、わたしの証人となります。」(使徒一ノ八)

② 異邦の民でなく、同胞であるが、反逆の民に福音を伝えイエス様も預言者は郷里では尊ばれないと言われた。何故か。

それは、イエス様をよく知っているからである。貧しい大工ヨセフとマリヤの子供である。高等教育も受けていないし、家柄も良い事はない。

③ 人々が興味を持っている話題から入っていく。

④ 人間の罪は神から離れて自分の力で生きようとする事

救いとは神さまのもとに帰ること。しかし、神様に帰るみちをしらない。イエス様が十字架の上から教えてくださった。神様に帰るとき、再び命が与えられ、罪から打ち勝つ力を与えられる。

新しい聖書の学び

六月から新しい聖書研究を行います。テキストは聖書だけです。これは教会ができてからこの方、信者の誰もがこれだけは丁寧におしえられなければならないという決められた教えです。牧師と信者が生涯かけて切り開く冒険的な学びです。今までと代わっているのは聖句を暗唱することを重点的に行います。聖句を暗記するのは認知症の予防にもなる一石二鳥の学びです。